

論文要旨

氏名	片岡 正太
タイトル	Relationship between Tungusic Chinese ethnic minorities and Okhotsk cultural people in dental metric trait
論文の要旨 【目的】 中国ツングース系少数民族とオホーツク文化期人の歯牙形測値間の関係性を分析し、オホーツク文化期人の起源を考察すること。 【方法】 資料は、本学、旧頭頸部構造解析学分野所蔵の中国内蒙古自治区、黒竜江省における調査時に作成された石膏模型を用いた。調査対象には、咬耗・摩耗の影響が少ないように民族学校の中学生を選出した。中国ツングース系少数民族であるホジェ族（男性 79 人）、エベンギ族（男性 79 人）の石膏模型から歯冠近遠心径（MD 径）、歯冠類（唇）舌径（BL 径）を藤田の基準をもとに測定し統計解析を行った。 【結果】 (1) 歯冠総面積: 極北アジア集団の歯冠総面積は、アイヌ等の縄文形質の強い集団の歯冠総面積に比べて大きな値を示した。また、ホジェ族、エベンギ族は北方アジア集団の中でも比較的大きな値を示した。(2) 偏差折線: 全計測項目において、16 集団の男性の歯冠計測値から平均値を求め、上下顎切歯、犬歯、小臼歯、大臼歯を項目とし、7 集団の偏差折線を作成した。BL 径においてホジェ族は、オホーツク文化期の偏差折線に近似した。(3) Q-mode 相関係数: 全計測項目において集団間の類似度行列を算出し、クラスター分析（Word 法）により各集団を分類しデンドログラムを作成した。2 つのクラスターに分類された。類似度行列を多次元尺度構成法により次元の減少を行い、二次元散布図、三次元散布図を作成した。両散布図は 2 つの集団に分類され、続縄文・擦文、オホーツク文化期のみ別の集団に分類された。 【考察】 (1) 歯冠総面積: 北アジアの影響が強いシノドントに分類されると示唆された。 (2) 偏差折線: BL 径はホジェ族がオホーツク文化期人との間に近縁性が認められた。 (3) デンドログラム: 中央アジア型集団と示唆され、オホーツク文化期と同じサブクラスターに分類された。散布図: 中央アジア型集団のうち、続縄文・擦文、オホーツク文化期に近い位置にプロットされたがやや距離があった。 以上より、ホジェ族、エベンギ族にオホーツク文化期人との間に直接的な近縁性は認められなかったが、部分的な近縁性は認められた。今後、更に資料を増やし、モンゴロイドの混血分布からオホーツク文化期人の起源を検討する必要がある。	